

猛暑から抜け出し、予想外のコースを取る台風もようやく抜け、明日は秋分の日。いよいよ秋本番です。

現在会員登録数 3,606 人さま。次号は 10 月 20 日発行の予定です！

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ

● オンライン講座「2020年に出版された子どもの本から」視聴受付中！
2020年に出版された子どもの本を約300冊紹介し、現在の子どもの本の傾向について考えます。（約2時間40分）

◇ 講師：土居 安子（当財団理事・総括専門員）

◇ 視聴期間：7月31日（土）～12月15日（水）

◇ 視聴料：1000円

◆ お申し込みは、外部決済システム「Peatix」イベントページから

<https://2020kodomonohon.peatix.com>

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html

● 「第38回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#38boshu

● 研究紀要の原稿募集

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html

● 再スタート10周年 一次の10年のためにー 記念寄付のお願い

皆様からのご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

年間1万円以上の寄付をいただいたかたには、佐々木マキさんデザインの当財団新キャラクター「イイクロちゃん」のグッズをプレゼント！

詳細は → http://www.iiclo.or.jp/donation_10th.html#special

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

- 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Yukiko's Talk

『山賊のむすめローニャ』アストリッド・リンドグレーン/作 イロン・ヴィークランド/絵 ヘレンハルメ美穂/訳 リンドグレーン・コレクション
岩波書店 2021年8月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：ローニャは山賊の頭マッティスの娘として生まれ、仲間の中で唯一の子どもとして大切に育てられる。しかし、森の中で、父の宿敵であるボルカ山賊の頭の息子で同い年のビルクと出会い、お互いに命を救い合っ
て「きょうだい」になる。二人の仲は秘されていたが、ある日見つか
り、マッティスは怒って、「おれには子どもはいない」と言う。二人は家出を
し、森の熊のほら穴で夏を過ごす
が、冬が少しずつ忍び寄ってくる。

Y：『山賊のむすめローニャ』の新訳が出ました。

F：一文が短いため、簡潔できびきびした感じがして読みやすく、北欧のかわ
いた空気を感じました。

Y：改めて感じた魅力は何ですか。

F：大人になって読むと、ローニャと父親の関係や、父親の厳しさとある意味
の弱さ、また家族を支える母親が心に残りました。山賊という設定になっ
ていますが、時代や国が違っても同じようなことは起こりうるように思
いました。

Y：どんなにお互いが愛していてもわかりあえないことがある。そして、大人
でも子どもでも妥協できない一線があるということがはっきり書かれて
いてすごいなあと思いました。

ローニャとビルクの関係が「きょうだい」として描かれた点もユニーク
です。

F：「訳者あとがき」でも触れられていますが、ローニャとビルクが対等な関
係として描かれています。

ローニャが遊ぶ森の描写も目に浮かぶようで、ローニャが自然の中で遊
びまわる様子に子ども時代ならではの驚きや楽しみを感じました。

Y：森には、リンドグレーンが創造したこびとや妖し鳥などが出てきて、不思議な森の様子が盛り立てられています。森の中で子どもだけで生活するのはまさに、サバイバル。命の危険があってもこんな生活してみたいなあ
と心から思いました。

F：春から楽しい夏へ、そして厳しい冬へと季節が移り変わる様子もドラマ
チックです。まるで人生を象徴しているようにも読めます。

Y：約 300 ページの作品のおもしろさは語り切れませんが、年寄りの山賊ス
カッレ・ペール、ローニャの母ローヴィスなど、個性的な人物が物語をより
豊かにしていると思いました。

* 今回のゲストは武庫川女子大学准教授の福本由紀子（F）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第73回「山男の四月」(上)

「六神丸」になった山男

前回は「よく利く薬とえらい薬」(当メルマガ NO.132)でしたが、薬から思い出すのは、やっぱり、「山男の四月」です。

日あたりのよい、かれ芝の上にごろりと寝ころんだ山男は、やがて、一人前の木こりのかたちに化けて、町へ行きます。「どうも頭があんまり軽くて、からだのつりあいがよくない」と思いながら……。

町で出会った「支那人」は、「六神丸」という薬を売っていて、小指ほどのガラスのコップを二つ出して、一つを山男にわたします。——「あなた、この薬のむよろしい。」長生きの薬だといわれて、仕方なくのんでしまうと、山男は、だんだんちぢまって、小さな箱に変わってしまいます。山男自身が一箱の「六神丸」になってしまったのです。——「やられた、畜生、……」

この場面から思い出すのは、やっぱり、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』(1865年)です。ウサギ穴に落ちたアリスは、広間のテーブルの上の小さなびんの首に「私を飲んで」という紙の札がくくりつけてあって、どこにも「毒薬」とは書いてありませんでしたから、ごくごくのんでしまいます。——「「変な気持!」と、アリスはいいました。「きっと、望遠鏡みたいにからだがちぢんでいくんだわ」(福島正実訳、角川文庫 1975年)

「山男の四月」が収められた『注文の多い料理店』(1924年)は、宮沢賢治の生前唯一の童話集ですが、刊行のときの広告ちらしには「少女アリス」ということばも見えます。『アリス』のような不思議な身体感覚を味わうことができるのが「山男の四月」の何よりの魅力です。しかし、この作品を論じる人たちには、別の視点もあるのです。

安藤恭子は、『遠野物語』など柳田国男の著作を参照しながら、山男(山人)を侵入者によって山に追いやられた先住民だとします。そして、あやしい「支那人」は、作品が書かれたころの日本人の「支那人」像の「引用」だともいうのです(安藤『宮沢賢治〈力〉の構造』1996年)。それなら、ふたりの関係をどう読んだらいいのか。このあとは、次回につづきます。(馬車別当)

(本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のことば 27

「がら がら がら とばた たん たばた たん」「ずばらば」「だば!」

(『もけらもけら』 山下洋輔/文 元永定正/絵 中辻悦子/構成 福音館書店 1990年11月)

ブックスタートに関わっている方と大学生に、たまたまこの絵本を読む機会があり、この絵本のことばの力に改めて気づかされました。ジャズピアニストで、挑戦的なインプロ（即興演奏）をされる山下洋輔さんのことばは、絵を見ながら声を出すとまるで音楽のよう。明るくなったり、暗くなったり、ゆっくりになったり、速くなったり、軽くなったり、重くなったり、リズムカルで存在観があって、自由で開放的な気分になります。

たとえば、タイトルの「もけら」という音。「も」の重さのある柔らかさと人に近づくような親しみと「けら」のユーモラスな感じ。さまざまな色のいろいろな頭の形をした人間のように見えるものが、語り合ったり、何かを見ようと首をのぼしたりしているように見える表紙の絵とあいまって、これから始まる「物語」を期待させます。

巧みな構成は、現在個展（「中辻悦子展 -WHO IS THIS? あなたは、誰（だ）あ）れ-」9/4~10/11 宝塚市立文化芸術センター）をされている中辻悦子さん。私にとっては、モノクロでできた「じょわらん じょわらん」という画面が「死と鎮魂」を思わせ、大きな転機に感じられます。そして、そこから最後まで一気に駆け抜けて終わります。20年ほど前、病気で入院している小学4年生の子どもにこの本を読むと、読んだときは何も言いませんでしたが、私が帰るときに、「ずばらば」と「もけら語」で言ってくれたことが忘れられません。

今回、声に出して読んだ時にもこの本を通して聞いてくださっている人との間に「場」が生まれ、オンラインではなく、対面で絵本を伝えることの意味を実感しました。ことばの根源に触れる本書は、赤ちゃんから大人までが楽しめる絵本であると再認識しました。（Y）

《4》 行って来ました！

クラブコスメチックス文化資料室で、11月29日まで開催されている企画展「コスメチックス広告-広告にみる大正ロマンと昭和モダン」に行ってきました。化粧品会社の展示ですが、子ども向け雑誌も紹介されていると聞いて見ってきました。

展示は、第1章「時代を映すコスメチックス広告」、第2章第1節「クラブ式広告」、第2章第2節「中山太陽堂 広告部」に分けられ、大正期から昭和初期を中心としたクラブ化粧品の広告をとおして、当時の生活や文化を探ることができる内容です。

中山太陽堂創業者の中山太一は、最先端の技術を取り入れ、生活の様々な場面に多様な手法で広告を展開したそうです。新聞や雑誌の広告、飛行大会でのアドバルーン、博覧会への出展、その絵葉書や雑誌広告、駅弁の包み紙、凝ったデザインの演劇プログラム、大正11年に放映された現存では日本最古と推察される宣伝用アニメーション（ルブランの母子像の絵を使ったカティ石鹼が対象）など、いろいろな広告が紹介されていました。

また、新聞広告に「いそっぷクラブ」という1枚の絵と物語のシリーズがあり、「猪とクラブ歯磨」では、猪が狐に「めかすためではなく身を衛るために手入れをするのだ」と言っています。そして、最後に「化粧の理想は衛生にあり」という訓言がついています。

雑誌の裏表紙の広告もたくさん展示されていました。主に婦人誌ですが、『女学世界』『赤い鳥』などもありました。和装や洋装の女性の絵がおしゃれで、歯磨き粉などの広告は子どもが描かれたものもあります。

他に子どもの出版とかかわる展示としては、中山太陽堂広告部に在籍していた山名文夫や東郷青児などの中に、「キンダーブック」に関わっていた水谷仲吉の名前がありました。

子ども文化と化粧品の宣伝。遠いようで近い存在だったと知った興味深い展示でした。(K)

コスメチックス文化資料室 <https://www.clubcosmetics.co.jp/museum/>

■ ----- ■

【3】全国のイベント紹介

■ ----- ■

● 大阪府子ども文庫連絡会 公開講座

「絵本でつながる、多文化に出会う ～“多様性は豊かさ”を手渡すために～」

講師：梨木亜紀（NPO 法人おおさか子ども多文化センター）

日時：10月12日（火）午前10時～12時 講演会 午後1時～3時 交流会

会場：大阪市立中央図書館 5階大会議室（大阪市西区北堀江）

定員：80人 ※事前申し込みが必要 参加費：無料（資料費有料）

主催：大阪府子ども文庫連絡会 共催：大阪市立中央図書館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■

【4】プレゼント

■ ----- ■

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『山賊のむすめローニャ』をプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.133 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は10月12日（火）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

昨年来、風邪をひかなくなったという声をよく耳にします。今年の冬のインフルエンザの発症もグンと減りました。マスクと手洗い、うがいの効果でしょうか。医療機関の現状を考えればできるだけお世話にならない方がよく、これからもこの時期の確実な習慣にしたいですね。(T A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いいたします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
